

| | | |
|---|--------------|---|
|  つや姫  雪若丸 | 穂肥だより | 令和3年7月2日発行 山形おいしさ極める！米づくりプロジェクト 西村山農業技術普及課 (TEL 86-8215) |
|---|--------------|---|

もうすぐ穂肥！ 遅れずに適期内に施用！
生育量は平年並みを確保。幼穂形成は平年並み。
食味・品質を最優先！ 適正な穂肥対応の徹底を！

【対策1】 生育を確認し、中干し等で早めに生育調節を行う！

- 生育量大きい・葉色が標準より濃いなら強めに中干し。適期・適量の穂肥が行える稲姿に仕上げます（時期：7月7日までに!）。それでも葉色が若干濃い場合、穂肥の時期はそのままに、施用量を減らして対応します。
- 梅雨後半に入り、曇天や雨が多くなっています。中干しの効果を高めるため作溝も合わせて行いましょう。※作溝により、倍速で水のかけ引きが可能に。

表 作柄診断圃の生育状況（6/30、普及課調べ） 生育は順調!!

「つや姫」生育調査ほ（寒河江市高屋）

| | 本年 | 平年 | 平年比 |
|------------------------|------|------|------|
| 草丈 (cm) | 48.7 | 41.9 | 長い |
| 茎数 (本/m ²) | 618 | 556 | 多い |
| 葉数 (枚) | 9.5 | 9.5 | 並 |
| 葉色 (SPAD) | 39 | 41 | やや淡い |

「雪若丸」生育調査ほ（寒河江市寒河江）

| | 本年 | 平年 | 平年比 |
|------------------------|------|------|-----|
| 草丈 (cm) | 37.9 | 37.1 | 並 |
| 茎数 (本/m ²) | 675 | 635 | 多い |
| 葉数 (枚) | 9.6 | 9.7 | 並 |
| 葉色 (SPAD) | 43 | 44 | 並 |

【対策2】 生育診断を確実に行う！

○「つや姫」

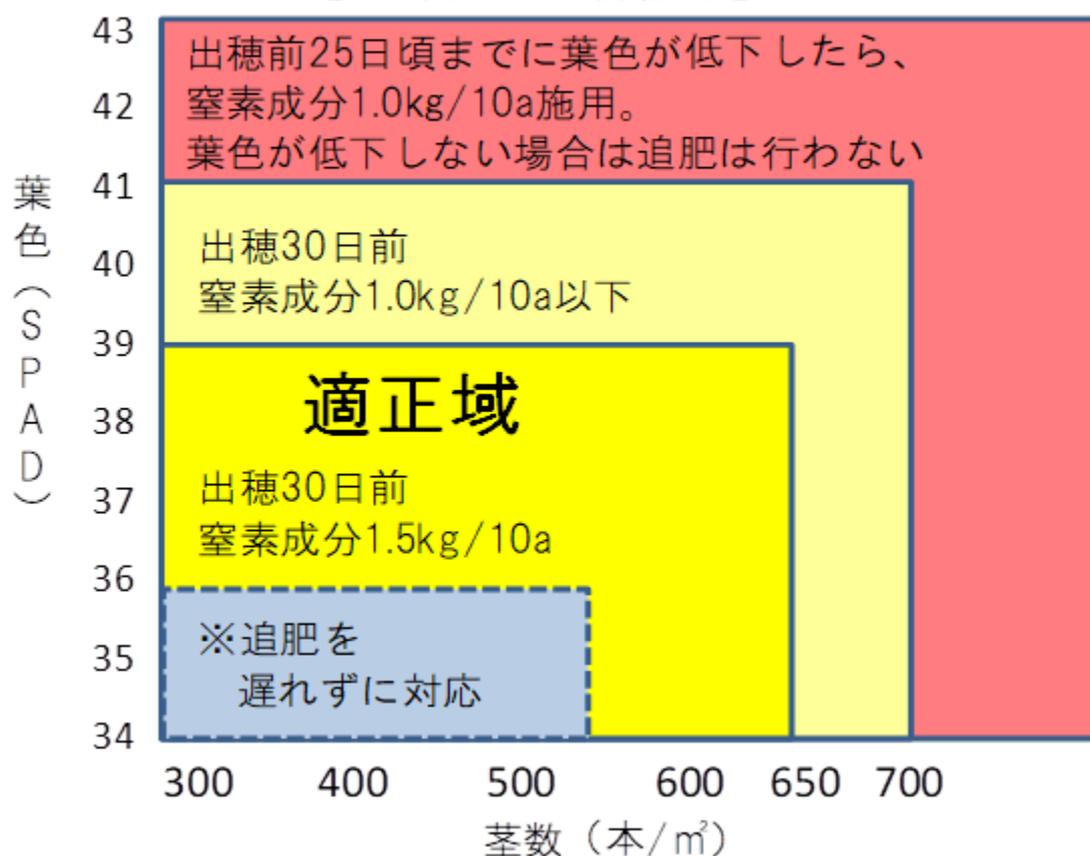
「つや姫」出穂期は8月8～10日頃と見込まれます。

7月10日（10葉期）頃に生育診断を行い、遅くとも出穂25日前までに品質・食味を優先した穂肥を行いましょう。地力の高い田や玄米タンパク質含有率が高い田では控えめに！

基肥一発肥料の場合は中干しときめ細かな水管理を徹底し、適正な茎数・葉色に導きます。

| 生育量 | 茎数 | 葉色 (SPAD) | 診断 | 穂肥対応 |
|------|-------------------------|-----------|----------------------------|---------------------------|
| 適正 | 600本/m ² 以下 | 39未満 | 適期適量の穂肥 | 出穂30～25日前までに1.5kgN/10aを施用 |
| やや過剰 | 600～650本/m ² | 39～41 | 穂肥量を減らす | 出穂30～25日前までに1.0kgN/10aを施用 |
| 過剰 | 650本/m ² 以上 | 41以上 | 出穂25日前までに葉色が低下した場合は、減肥対応 | 出穂30～25日前までに1.0kgN/10aを施用 |
| | | | 出穂25日前までに葉色が低下しない場合は、穂肥しない | 無施用 |

【10葉期の生育診断】



○「雪若丸」

生育診断結果を基に追肥の量や時期を調整して、適正な粒数 (30,000 粒/m²) を確保し、粒張りの良い、おいしい米を生産しましょう。

「雪若丸」出穂期は、8月2日～4日頃と見込まれます。 穂肥は、出穂25日前、7月10日頃までに窒素成分で1.5kg/10aを基本とします。追肥時期が遅れたり、量が多いと品質が低下し、玄米タンパク質含有率が高まります。下記を参考に生育診断を行い、穂肥は遅れずに適量を施用しましょう。

※基肥一発肥料を使用している場合は、中干しの徹底ときめ細かな水管理で適正な茎数・葉色に導きます。また、6月中に窒素肥料を補完施用した場合は減肥をお忘れなく!

| 生育量 | 茎数 | 葉色 (SPAD) | 診断 |
|------|-------------------------|-----------|---------------------------------|
| 適正 | 560～750本/m ² | 40～44 | 適期適量の穂肥 出穂25日前に1.5kgN/10aを施用 |
| 生育不足 | 560本/m ² 未満 | 40未満 | 早めの穂肥 |
| 生育過剰 | 750本/m ² 以上 | 44以上 | 穂肥量を減らす |

【対策3】 水田管理（水管理・雑草管理・病害虫）

中干し終了直後は飽水管理とし、その後は、間断かん水に移行します。間断かん水により「うわ根」の伸長を促すことで穂肥の窒素利用効率が高まります。

＜病害虫＞

○すでに葉いもちの発生が確認されています。さらに、感染に好適な気象条件が続いており、葉いもちの蔓延に注意が必要です。圃場をよく見回り、**早期発見、早期防除**を徹底しましょう。

○イネ科雑草が繁茂している**畦畔・農道等の草刈り**を地域ぐるみで徹底し、カメムシ類の生息密度低減に努めましょう。また、水田内のノビエやイヌホタルイなどの雑草は斑点米カメムシ類の水田侵入・増殖を促します。**水田内の残草処理も徹底**（※除草剤の使用時期を確認）しましょう。

カメムシの発生「やや多い」
“今年もカメムシには要注意！！”



アカヒゲホソミドリ
カスミカメ



アカスジカスミカメ

★刈払機での事故に注意を！

暑い日の作業は注意力が低下しがちです。適度に休憩や水分補給をしながら、あせらず作業を進めましょう。

- ・保護眼鏡やヘルメット等の保護具をきちんと身につける！
- ・肩掛けバンドを適正な長さで装着！
- ・濡れた草の上は滑りやすいので足元に十分注意！
- ・草や異物が詰まったときの対応は必ずエンジンを停止！



傾斜地では足場に注意！

農作業事故と熱中症に十分注意しましょう！
休憩と、こまめな水分補給を心がけ、無理のない作業を！